独立行政法人国立病院機構北海道医療センター地域医療連携室

れんけいNEWS

Vol.27
発行日：2025年1月

2025年 新春のご挨拶

北海道医療センター 地域医療連携室長　新野 正明

皆様には，健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症パンデミックは過ぎ去ったものの、インフルエンザなども含め感染症に対しては、まだまだ気が抜けない1年だったかと思います。当分寒い時期が続きますので、特に感染症には十分ご注意いただければと思います。

当院にとって昨年の大きな出来事の一つは、10月に導入された手術支援ロボットDa Vinciです。これにより患者さんの身体に負担が少なく、疾患の根治性の高い手術を行うことができるようになりました。もう一つは、4月に札幌市に認定された認知症疾患医療センターの設置です。このセンターの役割の一つが認知症に対する抗体医薬の導入ですが、これにより、より早期の認知機能低下状態、軽度認知障害（Mild Cognitive Impairment：MCI）が注目されるようになりました。認知症は、より早期に発見し、より早期に治療介入をという時代になりつつあります。

さて、昨年は様々な働き方改革のあおりを受け、いろいろな方面に影響が出ました。医療界でも医師の働き方改革が施行され、医療者の働く環境が大きく変わろうとしています。このように変化がめまぐるしい環境の中でも、地域の方が安心して暮らせるための医療をどのように提供していくか、それぞれの医療機関が自分たちの役割を考えながら、前に進むことが求められているのかと思います。地域の方や患者さんが安心して医療を受けられるようにするためのキーワードは何か、と考えたときに、その一つは「連携」ではないかと私は思います。一つの医療機関で一人の患者さんのすべてに対応するのではなく、状況に応じて「連携」しながら地域の方を診ていく体制が求められるのではないかと思います。当院は「Da Vinciの導入」「認知症疾患医療センターの設置」など新たなステージを経て、今年はそれらの機能をさらに発展させていきたいと考えています。是非、皆様にも当院の新たな機能を活用していただきながら、さらなる「連携」をお願いできればと思います。

今年１年、皆様に良い年であることを祈念しております。引き続き当院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

まいにちから、まんいちまで。

独立行政法人 国立病院機構
北海道医療センター

低侵襲手術センター 手術支援ロボットda Vinciの開始

低侵襲手術センター長　大隅　大介

2024年10月より手術支援ロボットda Vinciが導入され、現在、泌尿器科、外科、婦人科にてロボット支援手術を行なっております。

導入から約1ヶ月が経過した12月末時点、泌尿器科14件、外科17件、婦人科15件のロボット手術を大きなトラブルなく完遂し、滑り出しは上々と考えています。各科の手術内訳ですが、泌尿器科では腎悪性腫瘍手術7件、前立腺悪性腫瘍手術7件、外科では直腸切除術10件、胃切除術5件、結腸悪性腫瘍切除術2件を行い、婦人科では子宮全摘術13件および子宮悪性腫瘍手術（子宮体癌）2件を行いました。

ロボット支援手術の経験豊富な医師は積極的に症例を重ねている一方、このたびロボット支援手術に取り組み始めた医師は、安全性と手術完遂度を高めるため適切な症例を選択しながら日々研鑽しています。

実際に稼働したロボット支援手術に対する私の感想は、想像していた以上に患者さまに低侵襲であるということです。一見の創部こそ通常の腹腔鏡手術の際の直径5mmのトロッカーから8mm径とわずかに拡大しておりますが、ロボットに制御された動作ではトロッカー刺入部の腹壁にかかる負荷は極めて小さく、患者さまの創痛の訴えはほとんどありません。また腹腔内では3Dかつ拡大された視野と精密な動作のロボットアームにより、微細な血管なども損傷しないよう避けながら操作することが可能となり、従来の腹腔鏡手術よりも出血が少なく組織の不要な損傷の軽減を感じています。

すでに連携施設の先生方からは多くの症例をご紹介いただいておりますが、患者さまに低侵襲なロボット支援手術を北海道医療センターで行えるようになったことは地域の大きなメリットと考えており、今後いっそうのご紹介をお願いいたします。

またご施設を受診された患者様がロボット支援手術の適応かどうか迷わるようなケースも、遠慮なくご相談ください。ロボット支援手術の適応とならない場合でも従来の腹腔鏡など他の方法をご提案し、患者さまひとりひとりに最良の治療を行うことを心がけております。

今後とも北海道医療センターの低侵襲手術センターをよろしくお願いいたします。

低侵襲手術センターの構成

【背景】高齢化の進行とともに、体への負担や術後の合併症が少ない低侵襲な手技が求められています。
内視鏡を使用した手技は操作部位を拡大視し、精密な手技を行えることから、術後の合併症を最低限に抑え、早期離床を可能にします。

【目的】各診療科の持つ知識や技術を共有し連携を図り、より高度な内視鏡手術を行うことで、適正な治療を提供します。

【構成】低侵襲手術センターは**外科、婦人科、泌尿器科、呼吸器外科**の**4つの診療科**を中心に活動しています。

北海道医療センター地域医療連携室
新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくおねがいいたします。
連携登録医療機関の方々からは患者さんの紹介をいただき感謝申し上げます。
皆様のお力になれるよう連携業務に努めてまいりますので、引き続きよろしくおねがいいたします。

本年1月から認知症疾患診断外来・レカネマブ外来の他、ドナネマブ外来を開始いたします。受診予約申込書を一部変更しております。同封いたしました「受診予約申込書」を予約業務を担っている方や関係部署にお渡しいただけますと幸いです。
書式は当院ホームページよりダウンロードもできますが書式の郵送のご希望がありましたらご遠慮なく連絡ください。

☎011-611-8116（地域医療連携室直通）

[□ 北海道医療センター用　□ ご紹介元用]

受診予約申込書

令和　年　月　日

〒063-0005　札幌市西区山の手5条7丁目1番1号

北海道医療センター
地域医療連携室　宛

依頼医療機関
所在地
名　称
TEL（　）　－　FAX（　）　－
医師名

FAX:011-611-8112　TEL:011-611-8116

※FAXは24時間受電しております。翌営業日に予約票をお送りさせていただきます

希望診療科に○印

リウマチ（膠原病）科	呼吸器内科	内分泌・代謝・糖尿病内科	消化器内科	腎臓内科	循環器内科	脳神経内科	血液内科	外科・消化器外科	呼吸器外科	整形外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	泌尿器科	婦人科	皮膚科	形成外科	耳鼻咽喉科	眼科	麻酔科	神経筋外来（成育）	

希望専門外来に○印

便秘外来	肝臓専門外来	IBD専門外来	がん化学療法外来	ペースメーカー外来	多発性硬化症・視神経脊髄炎専門外来	認知症疾患診断外来	ドナネマブ・レカネマブ外来	ストーマ外来	おなかのヘルニア外来	脊椎専門外来	脊柱側弯症専門外来	手・肘・肩専門外来	下肢専門外来	足部専門外来	小児腎臓病センター	小児遺伝代謝センター	婦人科女性医師外来	婦人科骨盤臓器脱外来	嚥下外来			
消化器内科				循環器内科	脳神経内科			外科		整形外科					小児科		婦人科		耳鼻科			

フリガナ　　住所
氏

～医療機器共同利用のお知らせ～

北海道医療センター地域医療画像連携システム
▲三角山メディネット▲

（Web検査予約サービス）

CT単純・造影　　MRI単純・造影　　骨密度

- 連携医療機関側の負担はありません。
- 検査紹介元である連携医療機関側に必要な設備は、インターネット回線とパソコンもしくはタブレットのみです。
- 検査後の画像データ、読影レポートは即時オンライン公開され、ダウンロード可能です。

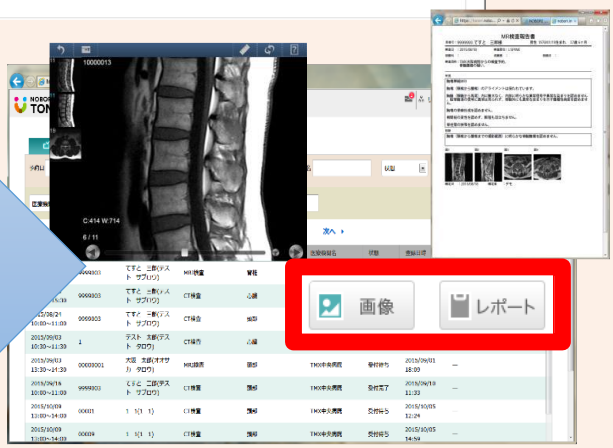
連携医療機関様の操作もかんたん

①検査機器選択

②予約日付カレンダー選択

③患者様情報、依頼情報
記入欄

検査が
おわると



三角山メディネットのお申込み・お問い合わせ・
地域医療連携室（齋藤）まで
☎011-611-8116（地域医療連携室直通）

独立行政法人国立病院機構　北海道医療センター地域医療連携室スタッフ
北海道医療センター地域医療連携室は以下のメンバーを中心に運営しております。
院長：伊東　学、地域医療連携室長：新野　正明、地域医療連携室副室長（看護師長）：有馬　祐子
地域医療連携係：齋藤　啓輔、地域医療連携室副看護師長：鈴木　かおり、主任医療社会事業専門員：濱口　晃郎
TEL：011-611-8116（連携室直通）、011-611-8111（代表）、FAX：011-611-8112（連携室直通）
ホームページ：http://Hokkaido-mc.hosp.go.jp/area/index.html